

# 2019年度 GNC活動報告



ウランバートル市立 青少年育成特別教育センターにて  
ティエラコム様からの文具の寄付、受け渡し

## モンゴルの春祭り「ハワリンバヤル2019」

### 【開催時間】

5月4日(土) 11時～17時

5月5日(日) 10時～16時

### 【会場】

都立光が丘公園 けやき広場（光ヶ丘図書館前）

5月4日と5月5日に、1998年の第1回開催から数えて、今年19回目となるモンゴルの春祭り「ハワリンバヤル2019」が開催されました。

19回目を迎える今年のテーマは「モンゴルの宝物マザーライ、守ろうモンゴルにしかない動物たち」です。

テーマの説明は「地球温暖化の影響による気候変動や砂漠化は、野生動物の数を減少させ、絶滅危機の一因になっています。この問題の影響を受け、絶滅の危機にある、モンゴルにしか生息しないゴビ熊「マザーライ」を知っていただく機会になればと思っています」

今年も当日は晴天で、多くのお客様が来てくださいました。

ハワリンバヤルは、スタッフとの久々の出会いの場でもあり、また、いろいろな方との出会いの場でもありました。



特定非営利活動法人 GNC Japan  
<http://www.kyouzon-gnc.com>



## 2019年度 植林報告

以下のように、植林作業を実施したことを報告します。

### 1. 植林作業実施概況

植林 実施日	春季	植林作業 2019年5月12日～26日 新規植林地 約16ha 新植林本数 40,000本
植林場所	モンゴル国セレンゲ県 アルタンボラグ村ゴロワンツァガントルゴイ周辺	
樹種	ヨーロッパアカマツ <i>Pinus sylvestris</i> (在来種) の2年生苗	
植林作業	ジャムスレン (GNC Mongolia 現地相談役) オグナー (GNC Mongolia 代表、森林・農場・苗畑担当 男性) サラ (GNC Mongolia 森林・農場・苗畑担当 女性) アルタンボラグ村及びボゴント村の村民など約90名 (延べ人数)	

### 2. 2019年植林地の概況報告

今年の植林地は昨年の植林地に隣接している場所で、国境の町アルタンボラグ村より約60km 東方に位置している。植林地周辺はもともと林であったが2009年6月の林野火災や伐採により草地化が徐々に進んでいた。また、近年の温暖化による生態系の変化が周辺の環境に影響を与えている。

豊かな生態系を持つ森林を早期に復元するため、植林により森林再生を行う。

現在は行政主導のもと、村役場や森林組合がパトロールを行い、不法伐採を防ぎ、火災の早期発見・初期消火活動を行っている。

今年は二つの場所から苗木を調達した。一つは昨年同様ボゴントで、良質の苗木を輸送した。使用したのは40cmの2年生アカマツ苗である。

二つ目の場所はGNCモンゴリアが管理する苗畑で、2017年に種から2年間育てた。自ら育てた苗を植林するのは今年が初めての試みとなる。

古木、草や岩が多く、植林前にチェーンソーで古木を切り、草を抜き、岩をどかしながら溝を掘って二人一組で効率よく植え付けを行った。地面に大きく溝を掘り、一番太陽が当たらない端の部分に苗木を植え、日光の当たり過ぎを防ぎ乾燥を避ける。

大きな溝には雨が溜まり、乾燥を防げるようにしている。

植生はイネ科やキク科の下層植生が密生している。土壌は砂質壤土で保水性が良好だった。

昨年は雨が多く苗の生育も良かったが、今年も苗が大きく成長することを期待する。

今年度の植林密度は2,500本/ha、春季植林が完了したことを報告する。



植林時の写真



遠景



作業期間に宿泊するゲル



植林作業









植林した苗



植林した苗





特定非営利活動法人 GNC Japan  
<http://www.kyouzon-gnc.com>



看板デザイン

看板写真



看板写真

苗畑

### 3. 今後の展望

ウランバートル近郊の苗畑で育て、苗木をセレンゲ県植林地やウランバートル市内に植林する。

ウランバートル市の都市計画の勉強会などに参加し、緑化事業に協力する。

新しい情報を入手し技術・知識面で成長するため、育苗の研究・研修・勉強会・交流会をする。

ウランバートル市内の幼稚園児と一緒にジャガイモなどの農作物の植え付けや収穫を体験できる機会を作る。

ウランバートル市内の小中学校と協力し環境学習を行う。



## 第18回 NGO合同研究&活動報告会

### 【開催日時】

2019年6月15日（土） 15:00～17:00

### 【会場】

ワンストップビジネスセンター新宿店 会議室

### 【プログラム】

1. 開会挨拶
2. 各団体報告（以下参照）&質疑応答
3. 意見交換
4. 閉会挨拶

### 【発表団体】

『一般社団法人地球緑化クラブ』

活動地：中国モンゴル自治区モウス砂漠、モンゴル国セレンゲ県

<http://www.ryokukaclub.com>

発表者：原 鋭次郎氏（地球緑化クラブ 代表理事）

テーマ：「2018年下半期から2019年上半期事業報告と今後の課題」について



### 【中国モンゴル自治区での活動】

〈シリングル盟正藍旗ホンシャンドーク沙地での活動〉

- ・過放牧により砂漠化した土地の生態系回復（砂漠緑化事業）
- ・防護柵の設置
- ・ニンティアオ（新芽を刈り取ると牧草になる）、ヤンツァイ（牧草になりやすい）などの在来低木種の植栽
- ・大きくなったら刈り取る、萌芽更新（ハウガコウシン）

(伐採後、残された根株の休眠芽の生育を期待して森林の再生をする)

〈オルドス市オトク旗モウス沙地での活動（カシミアで有名な地域）〉

- ・過放牧により砂漠化した土地の生態系回復（砂漠緑化事業）
- ・防護柵の設置
- ・臭柏、ニンティアオ、ヤンツァイなどの在来低木種の植栽
- ・大きくなると5mにもなり、砂の移動・砂漠化を止める

〈卓資県旗下営はげ山での活動〉

- ・耕作により荒廃した土地の生態系回復（生態林造成事業）
- ・防護柵の修復

〈フフホト市武川県はげ山での活動〉

- ・耕作により荒廃した土地の生態系回復（生態林造成事業）
- ・樟子松植栽（地球温暖化防止及び防風林）
- ・ヤマアズルの植栽（生態形造成、経済林造成）
- ・家畜被害による防護柵の修復、あと4年から5年で成長し、柵は不要となる
- ・サジ、カラマツなどの針葉樹

【モンゴル国トングリ村での活動】

- ・違法伐採により荒廃したはげ山の生態系回復（生態系造成）
- ・カラマツ、アカマツなどの在来高木種の植栽
- ・育苗施設での良質な苗木の育成
- ・育成した苗木の販売
- ・子どもたちの課外授業（高木植栽、育苗施設見学など）
- ・温暖化防止及び再生した生態系の保護に向けた契約
- ・植林体験ツアーの受け入れ（長野県のモンゴル親善協会が参加）
- ・機械で30cm掘り、人力で再度掘り、40cmの深さにして、雨水がよく入るようにしている

【今後の展望】

〈中国内モンゴル〉

- ・老朽化した防護柵の補修
- ・新規事業地の選定
- ・中国人有志による植林ボランティアとの提携（現地で活動広がる、法人化まで行った）



〈モンゴル国〉

- ・生態林拡大
- ・育苗施設の充実
- ・育成した苗木の販売
- ・子どもたちへの環境教育
- ・新規事業地の選定

【発表団体】

『特定非営利活動法人 GNC Japan』

活動地：モンゴル国・日本国

E-mail: [kyouzongnc@gmail.com](mailto:kyouzongnc@gmail.com) <http://www.kyouzon-gnc.com>

発表者：宮木 一平氏 (GNC Japan 代表理事)

テーマ：「2019年活動報告」について



・GNC J a p a n がモンゴル国セレンゲ県トジンナルス(果てしないアカマツ林)に植林を始めてから、今年で15年目となりました。

・2019年までに、615haの土地に、163万本の植林をしました。

・ボルノール市への苗木寄付を行った、ボルノール市80周年記念イベントの一環として、バヤンチャンドマンの苗畑で育てたハリス1,000本とシャルホワス1,000本の苗、合計2,000本をボルノール市の学校、病院、幼稚園、市役所、市民ホールにプレゼントをした。

学校では学生とGNCスタッフが一緒に植えた。施設の方より「苗木をプレゼントしてもらえてとても嬉しい、木を植えるのは心が豊かになるし、楽しい」と、とても喜んでもらった。

・教育センターでは学生などを対象にした、じゃがいも掘り、農業実習を行った。

【今後の展望】

- ・幼稚園での教育を拡大
- ・エコロジー教育センターと協力して、市民への環境教育を普及
- ・ごみ問題など、生活に根差した環境事業の模索
- ・苗畑の自立
- ・幼稚園、孤児院、学校と協力して農業実習を進める
- ・発展するウランバートルの街を緑化

【今後の植林の課題】

- ・山火事対策の未整備
- ・干ばつへの対策
- ・家畜被害、違法伐採への対策
- ・植林→間伐→間伐材の活用

参加していただいた皆様、ありがとうございました。



## 2019年 GNCモンゴルエコツアー報告

### 1. バヤンチャンドマン村 GNC苗畑視察

【日時】

2019年10月18日10:00～

【場所】

トゥブ（中央）県バヤンチャンドマン村

【スタッフ】

高橋京子（GNC Japan 事務局長）

バスカ（GNC Mongolia 事務局長 男性）

オグナー（GNC Mongolia 代表、森林・農場・苗畑担当 男性）

サラ（GNC Mongolia 森林・農場・苗畑担当 女性）

#### 1) 苗畑づくり

10時にバヤンチャンドマン村にあるGNC Mongoliaの苗畑に到着し、全体を視察する。今年5月に植えたアカマツの苗木は順調に成長しているので再来年の5月に植林できるだろう。それまでにしっかりと世話をして苗木を育てたい。



2019年5月に植えられた  
アカマツの苗



施設の入口



施設の様子

## 2 セレンゲ県 植林地視察

### 【日時】

2019年10月18日

17:30～（植林地：2010年春）

2019年10月19日

9:20～（植林地：2019年春）

9:50～（植林地：2014年春）

10:10～（植林地：2018年春）

10:30～（植林地：2016年春）

11:30～（植林地：2007年春）

12:20～（植林地：2006年春）

15:40～（植林地：2004年秋）

### 【場所】

セレンゲ県トジンナルス他

### 【スタッフ】

高橋京子（GNC Japan 事務局長）

バスカ（GNC Mongolia 事務局長 男性）

オグナー（GNC Mongolia 代表、森林・農場・苗畑担当 男性）

サラ（GNC Mongolia 森林・農場・苗畑担当 女性）【参加者】

### 【参加者】

ジャムスレン（元・森林・動物センター長 男性）

### 1) 森づくり

#### ・2010年植林地

活着率60%。一本一本のマツが成長して頼もしいマツになってきた。赤色の下草に青々としたマツがきれいに整列して育っている印象的な景色になっている。

#### ・2019年植林地

活着率80%。今年は雨が少ない時期と多い時期の差があったが、順調に成長していた。すでに30cmを超える苗もあった。今年、初めてGNCが苗畑で育てた苗を植えた。しっかりと根付いていたので良かった。



・ 2014年植林地

活着率は60%。昨年の生育も良かったが、さらに成長している。ボリュームのある立派なマツが多く、今後の成長が期待できる。

・ 2018年植林地

活着率は80%。この一年でよく成長した。生育にバラつきはあるが10～20cm成長している。

・ 2016年植林地

活着率は75%。一年で驚くほど成長した。80cmになるマツもあり、遠くから見ても分かるほどに存在感が出てきた。

・ 2007年植林地

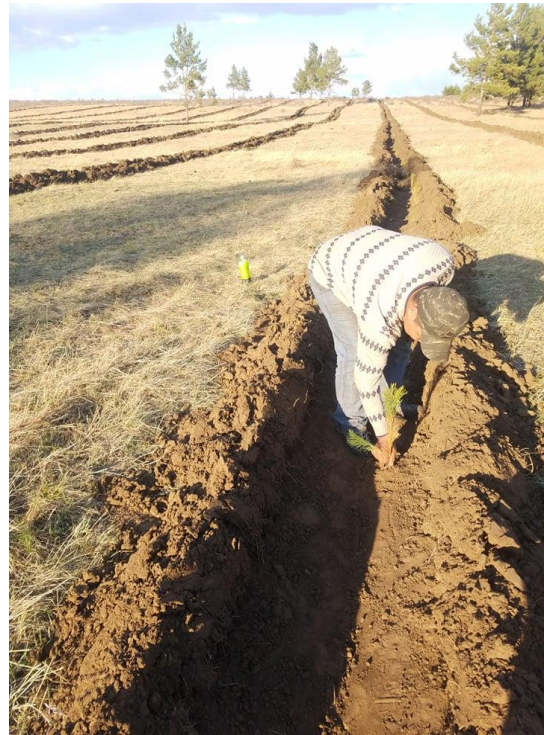
活着率は75%。昨年と変わらず安定している。生育も良くしっかりとした森になっている。

・ 2006年植林地

活着率70%。安定した森になっている。多くのマツが5メートルを超え、たくましく成長している。これらのマツの側に1メートル程のマツが数本育っている。親に守られて育つ子供のような。

・ 2004年秋万博（2005年愛・地球博のプレイベントの際の植林地）

昨年まで活着率20%だったが、自然にマツが育ち始め、30%になった。順調にいけば森が再生する可能性もある。



植林時の様子(2019年5月)







2010年植林地



2019年植林地



2019年植林地



2014年植林地



2018年春植林地



2016年春植林地





2007年春植林地



2006年春植林地



2006年春植林地



2004年秋植林地



## ＜ウランバートル市立 青少年育成特別教育センターにて文具の寄付＞

### 【日時】

2019年10月21日 17:00～

### 【場所】

ウランバートル市立 青少年育成特別教育センター（1991年設立）

### 【スタッフ】

高橋京子（GNC Japan 事務局長）

バスカ（GNC Mongolia 事務局長 男性）

### 1) 施設についての説明

17時に施設に到着する。今年も施設を訪問できるのを楽しみにしていた。

前校長のラムスレン先生が異動になり、新しい校長先生が赴任され、初の訪問となる。早速校長室に案内して頂いた。新しい校長先生のお名前はB.バトオルシフ先生で、以前より児童福祉関係のお仕事をされていたとのこと。来日された経験もある。温かな印象を受けるが、教育に熱い情熱をお持ちの先生だ。私達の話も熱心に聞いてくださった。

B.バトオルシフ先生より、現在の施設の状況についての説明を受けた。毎年ウランバートルの最も貧しい子どもたちを区ごとに調べて受け入れている。

国からは決まった物資しか寄付されず、不足している物も多い。また、支援してくれる各国のNPOも減ってきている。「皆さんの温かいお気持ちは大変嬉しく、感謝しております。モンゴルから見ると日本には必要なものがたくさんあり、学ぶこともたくさんある。このご縁に感謝し、日本とモンゴルのつながりを大切にしたいです」とのこと。夏に行われる特別学習についてのお話を聞いた。ウランバートルから北西に70kmの場所に施設があり、生徒の皆さんが自然の中で合宿することができる。（もともと遊牧民族であるモンゴル人は夏の間、街を離れて自然の中で酪農や農業を行いながら過ごす人が多い。）そこでは自然と関わり合いながら、生きる上での大切なことを学べるようだ。

学校の方針として、この施設で環境教育にも力を入れていきたいとのこと。近年、地球全体で環境破壊が進んでいるが、モンゴルでも川がなくなったり、森林面積が減少するなど、身近でも環境が破壊されていることを実際に感じる。自然の大切さを皆で学び、豊かな自然を取り戻す意識を持って環境教育に取り組みたいとのこと。

普段の生活では、生徒の皆さんは勉強、スポーツ、音楽、美術などの活動を頑張っている。陸上や格闘技の世界大会で入賞する生徒さんも数名いて、オリンピックに出場を目指すにして頑張っている。

## 2) 文具の受け渡し

生徒の皆さんが玄関ホールに集まってくれた。GNCから皆さんに挨拶をした。  
昨年も施設にいた生徒さん達は皆、私達のことを覚えていて、楽しみに待っていてくれた。昨年同様、事前に必要な文具の種類を確認し、頂いた寄付金でウランバートル市内の文具用品店で購入した。ノートは生徒の年齢によって種類が違うので（罫線の数や様式など）店員の方に確認して慎重に選んだ。

配布された文具を見て、生徒の皆さんは嬉しそうに目を輝かせていた。たくさんの文具を見て驚く生徒さんや、受け取った文具を手に取りじっと見つめる生徒さんも。

皆、勉強への意欲を見せてくれた。ティエラコムの日本の生徒さん達の気持ちを受け取り、有意義に文具を活用してほしいと願う。

校長先生からは、「今年もたくさんの文具を寄付して頂き、大変感謝しています。いつの日か生徒を連れて日本を訪問し、皆さんに感謝の気持ちを伝えることができたと思っています。ティエラコムの皆様と、GNCの皆様のご健勝をお祈りしています。」との言葉を頂いた。

後日、生徒の皆さんより、文具を寄付して頂いたティエラコムの皆さん宛のメッセージカードをたくさん頂いた。文字や絵がかける年齢の生徒さんが一人一人心を込めて、感謝の気持ちを丁寧に書いてくれた。カラフルな絵が描かれたり、かわいらしいシールが貼られたり、開くと飛び出る仕掛けがあるカードもある。どれも凝った作りになっていて、眺めているだけで楽しい気分になる。ティエラコムの皆さんから毎年たくさんの寄付を頂き、さらに心の距離が縮まったように感じる。ティエラコムの皆さんに、感謝の気持ちが届きますように、と願った。



新しく赴任されたB. バトオルシフ校長先生、文具の受け渡し



段ボールにいっぱいの文具







たくさんの文具ありがとうございます！！



お礼のメッセージカード



心を込めて書きました



どうもありがとうございます！！

